（別紙様式4）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
長崎リハビリテーション学院	昭和56年2月17日	本川　哲	〒856-0048 長崎県大村市赤佐古町42番地 （電話）0957-53-7883
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人向陽学園	昭和26年3月14日	烏山雅之	〒856-0825 長崎県大村市西三城町16番地 （電話）0957-52-3210

目的	建学の精神「奉仕」に則り、保健・医療・福祉分野における必要な知識技能を教授し、豊かな人間性をもち調和のとれた人格を兼ね備えた専門職（理学療法士）を育成することで、社会に寄与することを目的とする。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科二部	平成17年文部科学省告示第139号	―

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜間	99 単位	79	0	20	0	0

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	34 人	6 人	28 人	34 人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 定期試験等の評価でA（100点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（59点以下：不合格）とする。尚、臨床実習については、全実習の総合評価とする。
長期休み	■夏　季：9月10日～9月21日 ■冬　季：12月29日～1月4日	卒業・進級条件	修業年限（3年）以上在籍し、所定の全教育課程を修了した者、学業成績・出席時数を評定して、教育課程を修了と認めた者を単位認定・卒業判定会議の議を経て卒業させる
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任による学生ならびに保護者への定期的な状況確認　等	課外活動	■課外活動の種類 バレーボール・バスケットボール・サッカー・バドミントン・ソフトテニス・野球　等 ■サークル活動：有
就職等の状況	■主な就職先、業界等 平成29年に4年課程から3年課程へ変更。卒業生未輩出。 ■就職率※1　：　% ■卒業者に占める就職者の割合※2　：　% ■その他 （平成　29 年度卒業者に関する平成30年5月1日 時点の情報）	主な資格・検定等	理学療法士免許（国家資格）

中途退学の現状	■中途退学者　1 名　■中退率　0.9 % 平成29年4月1日時点において　在学者　23 名　（平成29年4月1日入学者を含む） 平成30年3月31日時点において　在学者　23 名　（平成30年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 平成29年度より3年課程へ変更。現時点で中途退学者なし。 ■中退防止のための取組 補習等による学習支援、学生相談窓口や養護教員による早期の情報把握や支援、さらには学科長会での全学的把握や対応等に取り組んでいる。
ホームページ	http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/

（別紙様式4）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
長崎リハビリテーション学院	昭和56年2月17日	本川　哲	〒856-0048 長崎県大村市赤佐古町42番地 （電話）0957-53-7883
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人向陽学園	昭和26年3月14日	烏山雅之	〒856-0825 長崎県大村市西三城町16番地 （電話）0957-52-3210

目的	建学の精神「奉仕」に則り、保健・医療・福祉分野における必要な知識技能を教授し、豊かな人間性をもち調和のとれた人格を兼ね備えた専門職（理学療法士）を育成することで、社会に寄与することを目的とする。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科二部	平成17年文部科学省告示第139号	―

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	夜間	98単位	80	0	18	0	0

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	40人	6人	19人	25人

学期制度	■Ⅰ期：4月1日～6月30日 ■Ⅱ期：7月1日～9月30日 ■Ⅲ期：10月1日～12月31日 ■Ⅳ期：1月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 定期試験等の評価でA（100点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（59点以下：不合格）とする。尚、臨床実習については、全実習の総合評価とする。
長期休み	■夏　季：9月10日～9月21日 ■冬　季：12月29日～1月4日	卒業・進級条件	修業年限（4年）以上在籍し、所定の全教育課程を修了した者、学業成績・出席時数を評定して、教育課程を修了と認めた者を単位認定・卒業判定会議の議を経て卒業させる
生徒指導	■クラス担任制：　有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任による学生ならびに保護者への定期的な状況確認　等	課外活動	■課外活動の種類 バレーボール・バスケットボール・サッカー・バドミントン・ソフトテニス・野球　等 ■サークル活動：　有
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院およびクリニック等の医療機関、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム等の福祉施設 ■就職率※1　：　79 % ■卒業者に占める就職者の割合※2　：　79 % ■その他 就職希望者14名全員が卒業。うち3名が国家試験に合格していないので理学療法士としての就職はできていない。 （平成　29 年度卒業者に関する平成30年5月1日 時点の情報）	主な資格・検定等	理学療法士免許（国家資格）
中途退学の現状	■中途退学者　3 名 平成29年4月1日時点において　在学者　40 名 平成30年3月31日時点において　在学者　37 名 ■中途退学の主な理由 進路変更（経済的理由等で別業種の就職を選択） ■中退防止のための取組 補習等による学習支援、学生相談窓口や養護教員による早期の情報把握や支援、さらには学科長会での全学的把握や対応等に取り組んでいる。		■中退率　7.5 % （平成29年4月1日入学者を含む） （平成30年3月31日卒業者を含む）
ホームページ	http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習（18単位・810時間）実施のため、病院・施設等と連携し専門家との意見交換を通し教育課程の編成に活かすことを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の意見を元に
各学科内会議→学科長会議→学院内案決定→理事会→カリキュラム等変更申請

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
岡崎 威	長崎県諫早医師会　監事	2年	①
山口昌大	医療法人犬塚病院ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科科長理学療法士	2年	③
小崎慶吾	桑原整形外科医院ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科室長理学療法士	2年	③
西田麻夏	グループホーム　花みずき施設長　言語聴覚士	2年	③
礒　直樹	三原台病院　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科主任作業療法士	2年	③
本川　哲	長崎リハビリテーション学院　学院長		
井崎　義己	長崎リハビリテーション学院　学院長補佐		
井戸　佳子	長崎リハビリテーション学院　副学院長		
加治　俊文	長崎リハビリテーション学院　理学療法学科一部学科長		
井ノ上　修一	長崎リハビリテーション学院　理学療法学科二部学科長		
桑原　由喜	長崎リハビリテーション学院　作業療法学科学科長		
安藤　隆一	長崎リハビリテーション学院　言語療法学科学科長		
貞島　政徳	長崎リハビリテーション学院　事務長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（開催日時）
第1回　平成30年4月23日　17:20～18:30
第2回　平成30年6月18日　17:20～18:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会からの意見を参考に、より良い教育内容を提供するべく関係会議の中で内容を検討している。業界から求められる人材育成のためには、その基盤となる基礎的知識や医療人としての基本的態度、また対象領域の広がりに沿った教育内容への変更などについて指摘をいただいた。これらについて今後のカリキュラム編成や授業計画に活かしているところである。

（別途、以下の資料を提出）
＊　教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
＊　教育課程編成委員会等の規則
＊　教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－１
＊　学校又は法人の組織図
＊　教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省に臨床実習施設として登録してあり、学生が自宅から通勤可能な病院・介護老人保健施設を選定している。また、実習の実施にあたり、臨床経験3年以上の指導者のもとで学生1名に対して指導者1名以上の基本体制が可能な施設を選定している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

臨床実習指導を担当する理学療法士に対して、学科教員が実習の具体的な到達目標を説明して実習を行っている。また、実習期間中に1回臨床実習施設に訪問し、実習の進み具合等について情報を交換している。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
臨床実習	学校から離れた臨床現場において、学内では学ぶことのできない臨床的な評価や治療の知識と技術を現場の理学療法士から直接指導を受けたり、実際の患者と接触したりといった体験を通して学ぶこと。	山下外科医院、織田病院、桑原整形外科医院、北松中央病院、橋口整形外科医院　連携施設37施設

（別途、以下の資料を提出）

＊　企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

長崎リハビリテーション学院教職員研修規定に基づき、職務の遂行に必要な知識又は技術等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力および資質の向上を図ることを目的とする。その中で専攻分野における実務に関する能力や指導力の修得・向上のための研修として全教員が職能団体や企業と連携した研修に参加し研鑽に努める。研修に参加した教員はその研修成果をもって学校業務に寄与し、修得した知識・技術等を職場において還元することとしている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

職能団体の学会や研修会への参加を通して専門分野の実務の力を高め教員の資質向上に努めている。例えば理学療法学会や作業療法学会、言語療法学会などである。

②指導力の修得・向上のための研修等

養成施設教員等講習会への参加により、教員の指導力向上を図っている。さらに全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会や研修会、キャリア教育財団主催による研修等への参加により教員の指導力向上を図っている。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

専門分野の実務の力を高め教員の資質向上のために、職能団体の学会や研修会への参加を計画している。例えば理学療法学会や作業療法学会、言語療法学会などである。

②指導力の修得・向上のための研修等

毎年、各学科養成施設教員等講習会への参加を計画している。また全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会・研修会、キャリア教育財団主催の研修会等への参加を計画している。学校での教育研修会を計画している。

（別途、以下の資料を提出）

＊　研修等に係る諸規程

＊　研修等の実績（推薦年度の前年度における実績）

＊　研修等の計画（推薦年度における計画）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の自己評価結果を、企業等の役員や職員その他必要な委員により組織される学校関係者評価委員会において評価する。その評価結果を次の教育活動や学校運営の改善に活かす。同時に自己評価・学校関係者評価の結果は学校ホームページにて公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1. 教育理念・目標
(2)学校運営	2. 学校運営
(3)教育活動	3. 教育活動
(4)学修成果	4. 学修成果
(5)学生支援	5. 学生支援
(6)教育環境	6. 教育環境
(7)学生の受入れ募集	7. 学生の募集と受け入れ
(8)財務	8. 財務
(9)法令等の遵守	9. 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	10. 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

「卒業時、国家試験合格に該当する成績か否かを判別する教員の能力や卒業試験の精度を上げることが重要」との意見に対し、学科独自に教員の勉強会を複数回にわたり開催するとともに、試験の難易度についても学科教員全員で検討を重ねた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
山下　均	鈴木病院　リハビリテーション科科長理学療法士	2年	企業等評価委員
山本政昭	真松病院リハビリテーション科アドバイザー作業療法士	1年	企業等評価委員
岩永　真仁	南野病院リハビリテーション科副科長作業療法士	1年	企業等評価委員
福田優希	南野病院リハビリテーション科副科長言語聴覚士	2年	企業等評価委員
平野英三	理学療法学科2期生、元同窓会会長	2年	卒業生
赤川義則	赤佐古町　町内会長	2年	地域住民
岡田一幸	長崎県立大村高等学校教頭	2年	高校等評価委員
小野俊文	県公立高等学校PTA連合会　事務局長	2年	専門家等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　)　)

URL:http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/

(別途、以下の資料を提出)

＊　学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3－2

＊　自己評価結果公開資料

＊　学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者が学校の専門課程全般について理解を深めるために、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報をホームページや印刷物にて提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学生要覧
(2)各学科等の教育	ホームページ、学校案内パンフレット、学生要覧
(3)教職員	ホームページ
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ、学校案内パンフレット、学生要覧
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ、学校案内パンフレット、学生要覧
(6)学生の生活支援	ホームページ
(7)学生納付金・修学支援	募集要項、ホームページ
(8)学校の財務	ホームページ
(9)学校評価	ホームページ
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/

(別途、以下の資料を提出)

＊　情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	サダシマ　マサノリ	所属部署	事務室
	氏名	貞島　政徳	役職名	事務長
	所在地	〒856-0817 長崎県大村市赤佐古町42番地		
	TEL	0957-53-7883	FAX	0957-54-6882
	E-mail	pc-100@nagariha.koyogakuen.ed.jp		

(備考)

・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1－2、2－1、2－2、3－1、3－2、4、5、6、7についても同じ。)。

授業科目等の概要

（医療専門課程　理学療法学科二部）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎セミナー実習	教育課程を履修する初期段階において、セミナー・実習形式で、理学療法やリハビリテーション、以後履修していく科目の概要について学習する	1前	45	1		○	△	○		○		
○			心理学	心理学とは人間の行動を科学的に究明する学問である。医療スタッフとして適応するための人間の心理や行動の基礎を学びます。	1後	30	2	○			○			○	
○			医療倫理学	医療における倫理について、科学的見地から学習します。	2後	15	1	○			○			○	
○			日本語表現法	読む、書く、聞く、話す の各領域に関する知識や技能のなかで、特に、書く、話す を演習活動を通して、その基礎力を養います。	1前	15	1	○			○			○	
○			文化人類学	文化人類学は自分が生まれ育った文化とは異なる他の文化を客観的に様々な視点から学びます。	2前	15	1	○			○			○	
○			社会福祉概論	リハビリテーション専門職として、現代社会における社会福祉の現状を理解し、基礎的な知識を習得します。	2前	15	1	○			○			○	
○			生物学	専門科目の基礎となる生物の構造、機能と調節、代謝、ヒトの遺伝などの基礎知識を学習します。	1後	15	1	○			○			○	
○			物理学	理学療法士にとって特に必要な力学について学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			統計学	様々なデータを処理するための基礎的統計手法を学習します。	1後	15	1	○			○			○	
○			健康・スポーツ科学	運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を学習します。	1前	15	1	○			○			○	
○			外国語	英語の基礎文法の復習を中心に、話す、聞く、書く、読むの四技能について実用的な運用能力を高めていきます。	1前	15	1	○			○			○	
○			ホスピタリティー論Ⅰ	社会人として一般常識を身につけ、更に思いやりのあるマナーで相手にあったコミュニケーション能力を習得します。	1通	15	1	○			○			○	

○			ホスピタリティー論Ⅱ	医療現場に必要な知識・技術と共に求められている相手にあった心のこもった関わり方を理解して行動できるようにします。	3通	15	1	○			○			○	
○			解剖生理学Ⅰ（運動器系）	人体の構造と機能について、筋骨格系を中心に学習します。また、基礎解剖を通して人体の動き（運動）についてさらに学習を進めます。	1前	30	2	○			○		○		
○			解剖生理学Ⅱ（神経系）	身体機能における神経の働きや役割について学習します。特に神経の成り立ちの中で「中枢神経」と「末梢神経」を区別して学習を進めます。	1前	15	1	○			○		○		
○			解剖生理学Ⅲ（呼吸・循環系）	人体の構造と機能について、呼吸器系と循環器系について学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			解剖生理学Ⅳ（内臓系）	疾病理解（内科学・病理学など）のための基礎となる人体の内臓諸器官の機能解剖学を学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			解剖生理学Ⅴ（感覚系）	人体の構造と機能について、感覚器系について学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			解剖生理学Ⅵ（運動の生理）	身体活動および運動時の人体の生理的メカニズムについて学び、リハビリテーションや運動処方に対する基礎的知識を学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			解剖生理学Ⅶ（疼痛の生理）	理学療法士に必要な痛みの概念や疼痛発生のメカニズムについて学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			生理学実習	生理学実習を修学することで、座学で学んだ生理学の知識を実験を通して生きた知識として定着させます。	1前	45	1		○	△	○			○	
○			人間発達学	ひとが生まれ成長していく過程と老いていく老化の過程をリハビリテーションの視点から学習します。	1後	15	1	○			○			○	
○			運動学Ⅰ	人間の身体活動を理解するために部位（関節）別に学習します。	1後	30	2	○			○		○		
○			運動学Ⅱ	人間の身体活動を、基本的な姿勢および歩行動作について学習します。	1後	15	1	○		△	○		○		
○			病理学概論	リハビリテーションに必要な病理的所見の基礎的な用語や諸症状の成り立ちについて学習します。	1後	15	1	○			○			○	
○			整形外科学	理学療法士に必要な整形外科疾患の基礎的知識と主要な疾患の特徴について学習します。	2前	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	リハビリテーションに必要な代表的な神経内科疾患の概念と基礎知識を学習します。また、学んだ知識を他の科目と関連づけて学習します。	2前	30	2	○			○			○	

○			内科学	内科学における内科的診断と治療の実際、症候学や各種疾患などの病態について学習します。	2後	30	2	○			○			○	
○			精神医学	臨床症状的視点・社会適応的視点からみた精神障害の自然史や臨床ステージにおける患者の機能障害などについて学習します。	1後	15	1	○			○			○	
○			臨床心理学	人格の理論について学習を行い、臨床心理検査法(発達・知能・人格)について学習します。また、各種心理療法について学習します。	2後	15	1	○			○			○	
○			総合臨床医学Ⅰ	脳・脊髄を中心に主にＣＴ・ＭＲＩ画像で正常な画像所見を学習します。また、主要な疾患の画像についてのポイントを学習します。	2後	15	1	○			○			○	
○			総合臨床医学Ⅱ	整形外科的疾患を中心に各関節ごとに学習を行います。また、リハビリテーションに必要な読影のポイントを学習します。	2後	15	1	○			○			○	
○			総合臨床医学Ⅲ	セラピストとして必要な臨床に必要な一般的な診療科目を中心に学習をします。	2後	15	1	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	医学的リハビリテーションから職業的、社会福祉的なリハビリテーションまで広範な概念を学習します。また、各専門職の患者に対する関わりを学習します。	1前	15	1	○			○		○		
○			リハビリテーション特論	チームアプローチの大切さを学習します。各職種(PT・OT・ST)の患者に対する評価から問題点抽出、治療について学習を行います。	1後	15	1	○			○		○		
○			理学療法学概論	理学療法の法律から各種評価・治療について概略を学習します。	1前	30	2	○			○		○		
○			理学療法基礎セミナー実習	理学療法士という職業に対するアイデンティティ確立のため、セミナー・実習形式で学んでいきます。	2後	45	1		○		○		○		
○			病態運動学Ⅰ	各部位（関節）別の運動器障害（病態運動）について学習します。	2後	15	1	○			○		○		
○			病態運動学Ⅱ	神経障害・内部障害別の病態運動について学習します。	2後	15	1	○			○		○		
○			理学療法研究法	理学療法研究法の具体的な手法、考え方、注意点を理解し、研究活動の基礎知識を学習します。	2後	15	1	○			○		○		
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法計画を客観的で妥当的なものにするために、評価をどのように実施するか、基本的な検査・評価を通して知識・技能を修得します。	1後	15	1	○			○		○		
○			理学療法評価学Ⅱ	理学療法における各種評価について学習します。特に徒手筋力テスト、関節可動域テスト、各種評価法を学習します。	2前	30	2	○			○		○		

○			理学療法評価学Ⅲ	理学療法における各種評価について学習します。特に徒手筋力テスト、関節可動域テスト以外の各種評価法（心電図を含む）を学習します。	2前	15	1	○			○		○		
○			理学療法評価学実習	理学療法評価学２で学習した内容を実技を通して各評価法の実施方法を学習します。	2前	45	1		○		○		○		
○			物理療法学	理学療法の主要介入の１つの物理療法の概説を学習します。	1後	30	2	○			○		○		
○			運動療法学	各種運動療法の基礎となる知識・技術を習得し、運動療法を科学として考える力を養っていきます。	1後	15	1	○			○		○		
○			日常生活活動学	基本的な日常生活の動作から歩行補助具、自助具等について学習を行います。	1後	30	2	○			○		○		
○			障害別理学療法学Ⅰ（運動器疾患）	整形外科的疾患の疾患特性を学習し各種評価から治療について学習を行います。	2前	15	1	○			○		○		
○			障害別理学療法学Ⅱ（脳血管疾患）	中枢神経障害の障害像を捉え、中枢神経障害の基本的理学療法を学習します。	2前	15	1	○			○		○		
○			障害別理学療法学Ⅲ（脊髄神経疾患）	脊髄損傷の障害像を全体的に把握し、理学療法における評価から治療について学習します。	2前	15	1	○			○		○		
○			障害別理学療法学Ⅳ（発達障害）	小児・発達障害についての理学療法評価から治療について学習を行います。	2前	15	1	○			○		○		
○			障害別理学療法学Ⅴ（内部障害）	運動が呼吸・循環・消化等に影響を及ぼす影響を理解し、主要となる疾患の評価から運動療法の考え方を学習します。	2前	15	1	○			○		○		
○			義肢・装具学	義肢、装具におけるチェックアウトから各種疾患における使用のポイント等について学習します。	2前	30	2	○			○		○		
○			スポーツ理学療法	スポーツ外傷を中心に各関節のアライメントに着目し、病態を理解して評価・治療ができるように学習を行ないます。	3前	15	1	○			○			○	
○			理学療法技術実習Ⅰ	基礎的なリハビリテーション技術（コミュニケーションや車椅子介助など）について学外・学内で実技を通して理解します。	1後	45	1			○	○		○		
○			理学療法技術実習Ⅱ	基礎的な理学療法技術（物理療法や歩行介助など）について学外・学内で実技を通して理解します。	2前	45	1			○	○		○		
○			特殊理学療法技術Ⅰ	各種特殊理学療法技術について、その基本概念と基本的な手技について学びます。	2前	15	1	○			○			○	

○			特殊理学療法技術Ⅱ	各種特殊理学療法技術について、その基本概念と基本的な手技について学びます。	3前	15	1	○			○		○		
○			特殊理学療法技術Ⅲ	各種特殊理学療法技術について、その基本概念と基本的な手技について学びます。	3後	15	1	○			○		○		
○			理学療法総合セミナーⅠ	臨床実習直前に、今まで学習した内容を再確認することで、スムーズな実習を実施できるようにします。	3後	15	1	○			○		○		
○			理学療法総合セミナーⅡ	国家試験・卒業・就職に向けて、今まで学習した内容を総合的に再確認・統合していきます。	3後	60	4	○			○		○		
○			理学療法総合セミナーⅢ	国家試験・卒業・就職に向けて、今まで学習した内容を総合的に再確認・統合していきます。	3後	30	2	○			○		○		
○			生活環境学	臨床場面で必要となる福祉制度や家屋調査の視点および住宅改修や福祉用具の種類について学習します。	2後	30	2	○			○		○		
○			地域リハビリテーション特論	地域で生活している障がい者、高齢者の生活機能の向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識、技術を学習します。	2後	15	1	○			○		○	○	
○			リスク管理学	理学療法を実施における標準予防策から各種疾患における注意すべきリスク管理について学習します。	3前	15	1	○			○		○		
○			臨床実習	臨床実習施設において、理学療法評価を実施し、そこから得られた結果を分析して障害像の把握や問題点の抽出ができるようにします。	3通	810	18			○		○		○	○
合計				66科目	2205時間（ 99単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各履修科目・臨床実習・卒業試験に合格すること	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	25週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（医療専門課程　理学療法学科二部）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学とは人間の行動を科学的に究明する学問である。医療スタッフとして適応するための人間の心理や行動の基礎を学びます。	1・Ⅳ	60	2	○			○			○	
○			医療倫理学	医療における倫理について、科学的見地から学習します。	3・Ⅳ	15	1	○			○			○	
○			日本語表現法	読む、書く、聞く、話す の各領域に関する知識や技能のなかで、特に、書く、話す を演習活動を通して、その基礎力を養います。	2・Ⅰ	15	1	○			○			○	
○			文化人類学	文化人類学は自分が生まれ育った文化とは異なる他の文化を客観的に様々な視点から学びます。	2・Ⅱ	15	1	○			○			○	
○			社会福祉概論	リハビリテーション専門職として、現代社会における社会福祉の現状を理解し、基礎的な知識を習得します。	2・Ⅳ	15	1	○			○			○	
○			生物学	専門科目の基礎となる生物の構造、機能と調節、代謝、遺伝などの基礎知識を学習します。	1・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			物理学	理学療法士にとって特に必要な力学について学習します。	2・Ⅰ	15	1	○			○		○		
○			統計学	様々なデータを処理するための基礎的統計手法を学習します。	3・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			外国語	英語の基礎文法の復習を中心に、話す、聞く、書く、読むの四技能について実用的な運用能力を高めていきます。	1・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			医学英語	医療場面で使用する英語について学びます。	2・Ⅲ	30	2	○			○		○		
○			ホスピタリティー論１	社会人として一般常識を身につけ、更に思いやりのあるマナーで相手にあったコミュニケーション能力を習得します。	2・通	15	1	○			○			○	

○			ホスピタリティー論２	医療現場に必要な知識・技術と共に求められている相手にあった心のこもった関わり方を理解して行動できるようにします。	4・通	15	1	○			○			○	
○			解剖学１（骨・関節・靭帯・筋）	人体の構造について、筋骨格系を中心に学習します。また、基礎解剖を通して人体の動き（運動）についてさらに学習を進めます。	1・Ⅰ	60	2	○			○		○		
○			解剖学２（脈管・神経）	身体における脈管系と神経の構造について学習します。特に神経の成り立ちの中で「中枢神経」と「末梢神経」を区別して学習を進めます。	1・Ⅰ	30	3	○			○		○		
○			解剖学３（内臓・感覚器）	人体の構造について、内臓と感覚器について学習します。	1・Ⅰ	30	3	○			○		○		
○			生理学１（一般生理）	疾病理解（内科学・病理学など）のための基礎となる人体の一般的な機能を学習します。	1・Ⅰ	30	1	○			○		○		
○			生理学２（神経生理）	人体の機能について、神経系に特化して学習します。	1・Ⅱ	30	1	○			○		○		
○			生理学３（運動の生理）	身体活動および運動時の人体の生理的メカニズムについて学び、リハビリテーションや運動処方に対する基礎的知識を学習します。	1・Ⅱ	15	1	○			○			○	
○			生理学４（疼痛の生理）	理学療法士に必要な痛みの概念や疼痛発生のメカニズムについて学習します。	3・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			生理学実習	生理学実習を修学することで、座学で学んだ生理学の知識を実験を通して生きた知識として定着させます。	3・ⅠⅡ	45	1		○	△	○			○	
○			人間発達学	ひとが生まれ成長していく過程と老いていく老化の過程をリハビリテーションの視点から学習します。	1・Ⅳ	30	1	○			○			○	
○			運動学	人間の身体活動を理解するために必要な力学的知識を学習し、基本的な姿勢および歩行動作について学習します。	1・Ⅱ	60	2	○			○		○		
○			運動学実習	運動学の知識をもとに実際の身体の動きの観察から作用する運動器系（筋・関節周囲組織）をより深く理解します。	1・Ⅱ	45	1		○	△	○		○		
○			病理学概論	リハビリテーションに必要な病理的所見の基礎的な用語や諸症状の成り立ちについて学習します。	1・Ⅲ	30	1	○			○			○	
○			整形外科学１	理学療法士に必要な整形外科疾患の基礎的知識と主要な疾患の特徴について学習します。	1・Ⅲ	30	1	○			○			○	

○			整形外科学２	整形外科学１で学習した内容をさらに発展させます。	２・Ⅱ	30	1	○			○		○		
○			神経内科学１	リハビリテーションに必要な代表的な神経内科疾患の概念と基礎知識を学習します。また、学んだ知識を他の科目と関連づけて学習します。	１・Ⅲ	30	1	○			○			○	
○			神経内科学２	神経内科学１で学習した内容をさらに発展させます。	２・Ⅰ	30	1	○			○		○		
○			内科学１	内科学における内科的診断と治療の実際、症候学や各種疾患などの病態について学習します。	２・Ⅲ	30	1	○			○			○	
○			内科学２	内科学１で学習した内容をさらに発展させます。	３・Ⅰ	30	1	○			○			○	
○			精神医学	臨床症状的視点・社会適応的視点からみた精神障害の自然史や臨床ステージにおける患者の機能障害などについて学習します。	２・Ⅳ	30	1	○			○			○	
○			小児科学	新生児から少年期における病態・疾患について学習します。特に理学療法の対象となる運動発達障害について学習します。	２・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			臨床心理学	人格の理論について学習を行い、臨床心理検査法(発達・知能・人格)について学習します。また、各種心理療法について学習します。	３・Ⅲ	30	1	○			○			○	
○			一般臨床医学１	リハビリテーションの主な対象となる脊髄損傷やウイメンズヘルス理学療法で問題となる排尿障害について理解するため、泌尿器科学について学習します。	２・Ⅱ	15	1	○			○			○	
○			一般臨床医学２	婦人科学、産科学、形成外科学、眼科学等について学習します。	２・Ⅱ	15	1	○			○			○	
○			救急医学	セラピストとして必要な臨床に必要な一般的な診療科目を中心に学習をします。	２・Ⅱ	15	1	○			○		○	○	
	○		健康増進論	疾病予防や介護予防としての理学療法をヘルスプロモーションの概念に基づき学習します。また、特にニーズが高い高齢者の健康維持分野も併せて学習します。	３・Ⅲ	15	1	○			○		○		
○			画像診断学１（中枢）	脳・脊髄を中心に主にＣＴ・ＭＲＩ画像で正常な画像所見を学習します。また、主要な疾患の画像についてのポイントを学習します。	３・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			画像診断学２（骨・関節）	整形外科的疾患を中心に各関節ごとに学習を行います。また、リハビリテーションに必要な読影のポイントを学習します。	３・Ⅲ	15	1	○			○			○	

○			リハビリテーション医学	医学的リハビリテーションについて、理念や概念、さらに主な疾患・障害に対するリハビリテーション技術について学習します。	2・Ⅱ	15	1	○			○		○		
○			リハビリテーション概論	医学的リハビリテーションから職業的、社会福祉的なリハビリテーションまで広範な概念を学習します。また、各専門職の患者に対する関わりを学習します。	1・Ⅲ	30	1	○			○		○		
	○		言語療法概論	言語聴覚士の視点から、リハビリテーションについて学習します。	2・Ⅳ	15	1	○			○		○		
	○		作業療法概論	作業療法士の視点から、リハビリテーションについて学習します。	2・Ⅳ	15	1	○			○		○		
○			理学療法学概論	理学療法の法律から各種評価・治療について概略を学習します。	1・Ⅳ	30	2	○			○		○		
○			理学療法学概論実習	理学療法士という職業に対するアイデンティティ確立のため、セミナー・実習形式で学んでいきます。	2・Ⅲ	45	1	○			○		○		
○			臨床運動学１	各部位（関節）別の運動器障害（病態運動）について学習します。	2・Ⅲ	15	1	○			○		○		
○			臨床運動学２	神経障害・内部障害別の病態運動について学習します。	2・Ⅱ	15	1	○			○		○		
○			理学療法研究法	理学療法研究法の具体的な手法、考え方、注意点を理解し、研究活動の基礎知識を学習します。	4・Ⅲ	15	1	○			○		○		
○			理学療法評価学１	理学療法計画を客観的で妥当的なものにするために、評価をどのように実施するか、基本的な検査・評価を通して知識・技能を修得します。	1・Ⅲ	30	1	○			○		○		
○			理学療法評価学２	理学療法における各種評価について学習します。特に徒手筋力テスト、関節可動域テスト、各種評価法を学習します。	2・Ⅱ	60	2	○			○		○		
○			理学療法評価学３	理学療法における各種評価について学習します。特に徒手筋力テスト、関節可動域テスト以外の各種評価法（心電図を含む）を学習します。	3・Ⅱ	30	1	○			○		○	○	
○			理学療法評価学実習	理学療法評価学２で学習した内容を実技を通して各評価法の実施方法を学習します。	2・Ⅲ	45	1			○	○		○		
○			運動療法学１（総論）	各種運動療法の基礎となる知識・技術を習得し、運動療法を科学として考える力を養っていきます。	2・Ⅱ	30	1	○			○		○		

○			運動療法学２（中枢A)	中枢神経障害（錐体路障害）の障害像を捉え、基本的理学療法を学習します。	２・Ⅱ	30	1	○			○		○		
○			運動療法学３（中枢B)	中枢神経障害（錐体路障害以外）の障害像を捉え、基本的理学療法を学習します。	２・Ⅱ	15	1	○			○		○		
○			運動療法学４（整形）	整形外科的疾患の疾患特性を学習し各種評価から治療について学習を行います。	３・Ⅰ	15	1	○			○		○		
○			運動療法学５（小児）	小児・発達障害についての理学療法評価から治療について学習を行います。	３・Ⅰ	15	1	○			○			○	
○			運動療法学６（内）	運動が呼吸・循環・消化等に影響を及ぼす影響を理解し、主要となる疾患の評価から運動療法の考え方を学習します。	３・Ⅰ	15	1	○			○		○	○	
○			運動療法学実習１	運動療法学１・２・３で学習した内容について、実習を通して学びます。	２・Ⅱ	45	1		○		○		○		
○			運動療法学実習２	運動療法学４・５・６で学習した内容について、実習を通して学びます。	３・Ⅱ	45	1		○		○		○		
	○		認知運動療法学	特殊理学療法技術である認知運動療法について、その基本概念と基本的な手技について学びます。	３・Ⅱ	15	1	○			○			○	
○			物理療法学	理学療法の主要介入の１つの物理療法の概説を学習します。	３・Ⅲ	30	1	○			○		○		
○			物理療法学実習	理学療法の主要介入の１つの物理療法の概説を学習します。	３・Ⅳ	45	1	○			○		○		
	○		疼痛理学療法学１	理学療法が対処可能な痛みについて、その概念と評価方法について、学習します。	３・Ⅱ	15	1	○		○	○		○		
	○		疼痛理学療法学２	理学療法が対処可能な痛みについて、その治療法について、学習します。	３・Ⅳ	15	1	○		○	○		○		
○			日常生活活動学１	基本的な日常生活の動作から歩行補助具、自助具等について学習を行います。	１・Ⅳ	30	1	○			○		○		
○			日常生活活動学２	日常生活活動学１で学習した内容をさらに深め、疾患・障害別の日常生活技術について学習します。	３・Ⅱ	15	1	○			○		○		

○			日常生活活動学実習	日常生活活動学２で学習した内容を実技を通して、疾患・障害別日常生活活動の支援方法を学習します。	３・Ⅲ	45	1		○		○		○		
○			義肢・装具学	義肢、装具におけるチェックアウトから各種疾患における使用のポイント等について学習します。	２・Ⅳ	30	1	○			○		○		
○			疾患別理学療法学１	運動器障害を疾患別に分け、その理学療法アプローチ方法について学習します。	３・Ⅱ	30	1	○			○		○		
○			疾患別理学療法学２	中枢神経障害や内部障害を疾患別に分け、その理学療法アプローチ方法について学習します。	３・Ⅳ	30	1	○			○		○		
○			スポーツ理学療法	スポーツ外傷を中心に各関節のアライメントに着目し、病態を理解して評価・治療ができるように学習を行ないます。	３・Ⅲ	15	1	○			○			○	
○			理学療法総合セミナー１	国家試験・卒業・就職に向けて、今まで学習した内容を総合的に再確認・統合していきます。	４・Ⅳ	60	2	○			○		○		
○			理学療法総合セミナー２	国家試験・卒業・就職に向けて、今まで学習した内容を総合的に再確認・統合していきます。	４・Ⅲ	30	1	○			○		○		
○			生活環境学	臨床場面で必要となる福祉制度や家屋調査の視点および住宅改修や福祉用具の種類について学習します。	３・Ⅳ	30	2	○			○		○		
○			地域リハビリテーション特論	地域で生活している障がい者、高齢者の生活機能の向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識、技術を学習します。	３・Ⅳ	15	1	○			○		○	○	
○			リスク管理学	理学療法を実施における標準予防策から各種疾患における注意すべきリスク管理について学習します。	３・Ⅲ	15	1	○			○		○		
○			臨床実習	臨床実習施設において、理学療法評価を実施し、そこから得られた結果を分析して障害像の把握や問題点の抽出ができるようにします。	４・通	810	18			○		○		○	○
合計				７８科目	（必修2760時間 / 選択90時間） （必修97単位 / 選択6単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各履修科目・臨床実習・卒業試験に合格すること	１学年の学期区分	４期
	１学期の授業期間	１０週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこ